

もの言う牧師のエッセー 第354話

「洞窟からの生還」

7月10日、タイ北部チェンライ県のタムルアン洞窟に2週間以上閉じ込められていた地元サッカーチームの少年とコーチ計13人が無事に救出され、タイは国中がお祭り騒ぎとなり、世界中が歓喜した。このミッションに参加した“潜る英雄たち”の多国籍ぶりがスゴイ。

まずは洞窟学の世界的権威、英国人のボランセン氏とスタントン氏。彼らが最初に少年らを発見した。休暇をなげうち豪アデレードから参加したハリス医師。洞窟で少年たちを診察し、救出作戦に耐えられるだけの体力があると判断した。タイ海軍特殊部隊からは大勢の専門家が参加した。特にロハレンシューン医師を含む4人の隊員たちは最後まで洞窟に留まった。少年らに酸素ボンベを運んだ後、出口に向かう途中で意識を失い亡くなった、元タイ海軍潜水士のサマン・グナン氏。彼は事故の一報を聞いた時、誰よりも早く現場に駆けつけた人だった。フィンランド人のピアシ氏。洞窟内で少年たちの生存が確認された日、彼の妻は夫が救助活動に参加できるようにチェンライ行きの航空券を買った。その日は夫妻の結婚記念日だったという。彼の同僚のカラディッチや、計63時間も潜水したカナダ人のブラウン氏をはじめ、タイ在住のベルギー人のレメナント氏と彼の同僚のラスムッセンなど枚挙に暇がない。

日本も JICA(国際協力機構) から排水の専門家らを派遣したほか、JAXA(宇宙航空開発研究機構)が撮影した洞窟の地形の画像データを提供するなど支援に参加した。救出作戦を指揮したチェンライ県のオサタナコーン元知事は、「ヒーローは世界中の人々だ。」

実は聖書には洞窟の逸話が多く、中でも洞窟で苦しみに喘ぐダビデの叫びは有名だ。

「私の魂を、牢獄から連れ出し、私があなたの御名に感謝するようにしてください。」

正しい者たちが私の回りに集まることでしょう。」

詩篇 142 篇 7 節。

信仰者が暗闇のどん底に沈むことは珍しくない。しかし時が至った時、神は助けてくださる。問題は神がそれを正しい人たちの手を通して成されるということだ。そしてミッションが成功した時、その喜びは本人に留まらず多くの人たちが共有する。さらに言えば、イエスは我々一人ひとりを死の洞窟から救うために、人となってやって来られた。そして、彼に救われた人々の間で歓喜の賛美が起こるのだ。

2018-9-21

